

# ゆうゆうの森プロジェクト

宮城西市民センター × 青葉区中央市民センター

## 1 事業概要

宮城西地区は、古くから薪や炭などの燃料や木材の供給地としての役割を担い、里山や森林を利活用し保全することに努めてきました。しかし、時代の変化とともにこれらの産業は廃れ、次第に里山や森林が荒れる状態となっており、子どもたちが森で遊ぶ機会も少なくなっています。

そこで、上愛子小学校に隣接する雑木林「ゆうゆうの森」での様々な活動を通して、先人たちが実践してきた里山の利用と再生の仕組みを楽しく学ぶことで、地域に関心を持ち主体的に活躍する人材の育成を目指します。



## 2 令和4年度の活動



ゆうゆうの森で春と秋に植生観察会を実施しました。子どもたちは講師の話を熱心に聞きメモを取ったり、実際に植物を手にとったりしながら観察をしました。

夏に実施予定だったクラフト体験は新型コロナウイルスの影響で秋に延期して実施しました。子どもたちの企画で、ゆうゆうの森に落ちている葉っぱや木の実を利用した工作コーナーや、大きなブランコやパチンコの的当てなども設置し、とても盛り上がった会となりました。

## 3 成果と課題

植生観察会では、ゆうゆうの森の地域資源としての魅力や、植物の一年のサイクルを通じて自然の再生の仕組みを学ぶことが出来ました。

クラフト体験では、子どもたちが企画を考え、実施に向けて準備を重ねてきました。工作の材料を集めたり、パチンコの弾に使う枡の実や栗などを拾ったりするなど材料はゆうゆうの森で調達しました。身近な里山を利用することで、様々な活動が出来ることを学びました。



## 4 今後の展望



里山の再生の仕組みを学ぶ一環として、ゆうゆうの森で伐採した木を使った炭作りを計画していましたが、新型コロナウイルスの影響により活動が出来ず、炭窯も使用できなくなってしまいました。

今後は新たに、伐採した木を<sup>ほたぎ</sup>楢木として利用したキノコの栽培を行うことで、里山の利用と再生の仕組みを学ぶ機会を提供したいと考えています。